

脱コンクリートジャングル [都会の森]×[居場所]計画始動!

まちのイメージ転換!柔軟で多様な使い分けで豊かな居場所づくり

04 に関連したテーマですが、今回の調査では、この町には緑が少ないので花や緑を増やしてほしい。灰色の街に彩を与えたい!などの希望が多く寄せられました。また公園・広場について「みんなが気持ちよく使える」と「いざという時の緊急避難場所」が約7割、「野宿しなくてよいサポートが必要」と「使い分けを工夫」が4割を占めました。労働者の7割が「公園・広場や緑が豊かなまち」を求め子どもの半数が「もっと自由に遊びたい」と答えています。とくに低学年は、イベントと緑を増やしてほしいが7割以上をしめながらも「公園で生活する人のことも考えて」と思う児童が半数を超え、労働者も「子どものために公園を」の声もあがるなど、互いに慮っていることが特筆できます。



中日新聞 2008 年 1 月 14 日

現在,公園専門部会では「使い分け」や「暫定利用」について議論しており,多様な利用者の居場所づくりと運営のあり方などについて検討しています。なかでも旧萩之茶屋小学校にあった「萩の森」の移設をはじめ,地域運営によるプレーパークや屋台村構想,労働センター仮移転時の居場所拠点,コミュニティ農園など,みんなが協働する地域貢献事業として多様な利活用が検討できそうです。時間・空間・関係の間をデザインしたこの取組みが実現することで,全国でもユニークな取り組みとして注目されるでしょう。

その他にも、まち全体が協働する空き地や建物の緑化プロジェクトなど、行政の環境施策を活用して、まちの様相を変える手法検討もできそうです。

箕面市萱野では、地域の遊休地約500㎡を自分たちの広場・地域の居場所として活用しています。何もなかった空き地に「中古コンテナ」を置くことから始まりました。

コンテナには、チャレンジショップ機能があり、本設も建設されいます。これまでに駄菓子屋から子育て世帯向けレストラン、コミュニティコンビニ、キッズカフェ、マッサージから朝市、ライブまで、多くの人々の出会い・つながり・元気になる重要なエンジンとなっています。「期間限定」などチャレンジしやすい仕掛けも重要です。

http://www.kitashiba.org/



資料© kindai terakawa